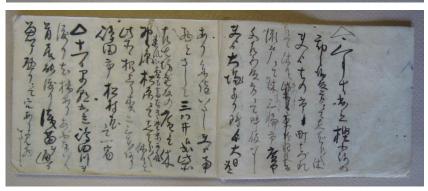
九州放日記

- 文政六年 柳井津町小田氏の旅-
 - 寛政八年 柳井村小田氏の旅-

目次

筑前国太宰府天満宮江参詣之事	万於保恵日記	道中要用諸控当座帳	凡例	寛政八年柳井村小田氏の旅(行程表	寛政八年柳井村小田氏の旅ルート図	文政六年柳井津町小田氏の旅 行程表	文政六年柳井津町小田氏の旅ルート図	解説	目次
43	: : : : : : :	: : : : 10	; ; ; ; 9	: : : : 8	: : : 7	6	5		







道中要用諸控当座帳

解 説

した。以下、各文書について簡単に説明する。 田家文書「筑前国太宰府天満宮江参詣之事」(№39)をテキストと 諸家文書の中から、 No. 899 平成25年度山口県文書館古文書実践講座3班は、当館が所蔵する および「万於保恵日記」(No. 54)、 柳井市金屋小田家文書 ならびに柳井市和田小 「道中要用諸控当座帳」

道中要用諸控当座帳

津町(現柳井市)の小田氏が、九州・萩を旅行した際の旅日記である。 小田家は、 |道中要用諸控当座帳」は、文政六年 (一八二三)、岩国藩領柳井 柳井津町を代表する商家で屋号を室屋という。 江戸時

帯刀御免を認められ、さらに、寛政七年(一七九五)には岩国藩の 岩国藩への度重なる献金の功により、小田家は家筋代々大年寄格、 代、反物・打綿などの商い、油・蝋・鬢付油の生産販売、地主経営、 士分に取り立てられた。幕末期には大組士にまで上昇している。 塩田経営などで発展をとげた。十八世紀には町年寄役を務めている。 室室 一林兵衛」とあり、一屋)

が旅日記の記主と考えられるが、

小田家の系図には「林兵衛」の名

道中要用諸控当座帳」

の裏表紙には

彼

前はみえない。 時期的には、 六代目小田六左衛門の若い頃

前後)

の名前である可能性が高い。

げ 笠 太宰府、 に帰還した(ルート、日程の詳細は後掲資料参照)。遠く長崎を訪れ 山口型とでも言うべき旅のコースであったことが注目される。 る旅であったこと、 九州からの帰りには萩・山口にも立ち寄り、四月二十六日に柳井津 旅であったことが推測される。 なお、冒頭に「毎日荷物改」 旅は、三月十日に柳井津を出発して十五日に九州へと渡り、博多、 五」「御守 熊本を通り長崎を訪れた。 五」などの記述がある。数量記載からして、五人 九州旅行に萩・山口旅行を加えた、九州+萩 (荷物のチェック項目) があり、「す 長崎には四日間滞在している。

万於保恵日記

何にどれだけ使ったのかがこの文書からわかる。 土産物代、宿賃、 「万於保恵日記(よろずおぼえにっき)」は、右の旅行中の買物代、 食費等を記入した出納簿である。 旅行中、どこで

九八四年)四三七~四四〇頁参照のこと。 小田家が使用した符牒については、『柳井市史 なお、一部、 数字が符牒(商家が用いる記号)で記されている。 通史編』(柳井市

Ξ 筑前国太宰府天満宮江参詣之事

記の記主) した旅日記である。裏表紙に「保永」とあることから、旅の主(日 国藩領玖珂郡柳井村の小田氏が、九州・萩を旅行した際の様子を記 (文化元年十月没) であることがわかる。 「筑前国太宰府天満宮江参詣之事」は、 は、 天明~文化期に柳井村の庄屋を務めた小田杢左衛門 寛政八年 (一七九六)、岩

享保期には岩国藩から「家筋代々名字御免」を認められた。 家とは遠戚関係にある。 などで水車経営を行っていたことでも知られている。柳井津の小田 小田家は、元禄期以降、代々柳井村の庄屋役を務めた家である。 和田川

め や英彦山を訪れて四月一日に下関に戻る。そこから赤間関街道を通 博多、太宰府、 って萩へ進み、萩見物後、 島原・長崎を訪れる予定であったが、天候不順のためそれをあきら 旅は三月四日に柳井村を発したことに始まる。七日に九州へ渡り、 (詳細は後掲資料参照)。 熊本へと向かった。その後、湯ノ谷、北里、 久留米、柳川と進む。そこから、島原湾を横切り、 山口 宮市を通って九日に柳井に帰還し 森と進み、宇佐宮

小田杢左衛門の旅も、 九州+萩・山口型の旅である。 また、 当初 た

たといえる。 くとも柳井の人々にとって、観光地としての長崎の意味は大きかっ は長崎を訪れる計画であった。 室屋林兵衛の例とあわせると、

なお、原本には、旅中の出納関係記載もあるが、解読を省略した。

〈参考文献〉

- ・『山口県文書館諸家文書目録1 柳井市金屋小田家文書』
- (一九九四年) (T) 「解説」
- ・『右同3』(一九九六年)の柳井市和田小田家文書の「解説
- ・山﨑一郎「赤間関街道と民衆の旅」(『歴史の道調査報告書 赤

間関街道』山口県教育委員会 一九九六年)

実践講座受講生

担当した実践講座3班のメンバーは以下のとおり。

阿部和正・石田雅司・小泉和夫・武清秀夫・中村睦美・

松永恵子

〈サポート〉 山﨑 郎・和田秀作・吉積久年 (山口県文書館



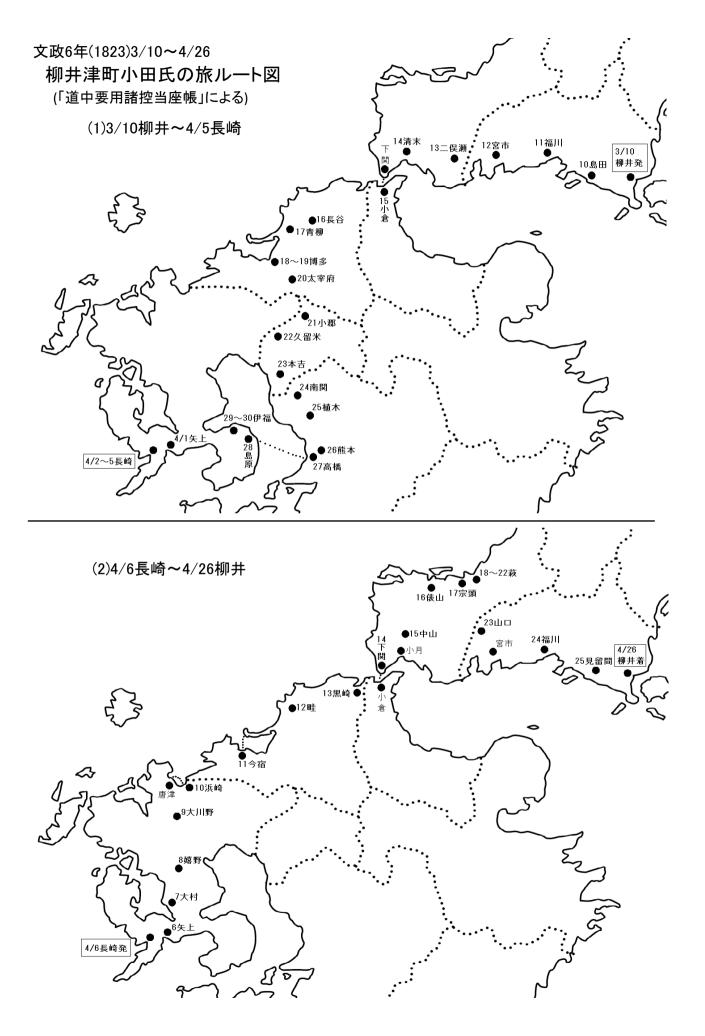




万於保恵日記



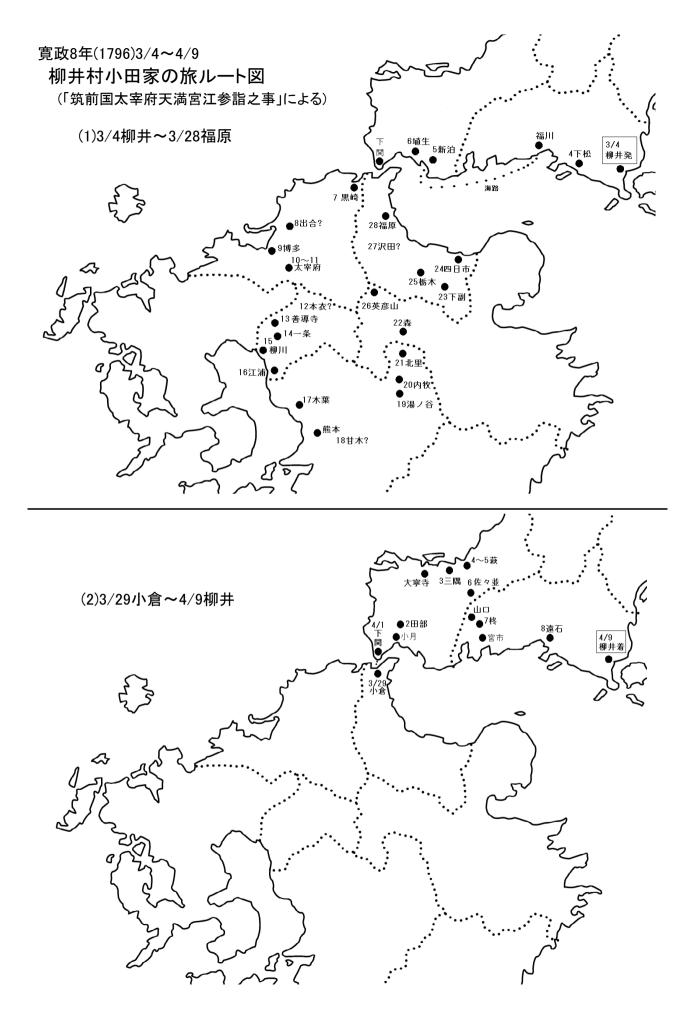
筑前国太宰府天満宮江参詣之事



文政六年柳井津町小田氏の旅 行程表

4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	月
2	1	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	日
肥前	肥前	肥前	肥前	肥肥前後	肥後	肥後	肥後	肥筑後後	筑 後	筑 後	筑 筑 後 前	筑 前	筑 前	筑 前	筑 前	筑 豊 前 前	豊長 前門	長 門	長周門防	周防	周 防	周防	国 名
→長崎	→江浦→矢上 →守山→山田→野井→愛津→唐古→有喜	(伊福)	神代→西郷→伊福 → 三会→ 東空閑→ 湯江→ 多比良→ 土黒→	→ (渡海)→ 盗人島→ 島原	→高橋	→熊本	→山鹿→植木	→ 野町→ 原野町→ 北関→ 南関	→ 一条→ 羽大塚→ 野町→ 尾島→ 本吉	→ 古賀→ 追分→ 府中→ 久留米	→ 湯町→ 筑紫村→ 原田→ 基山→ 小郡	→太宰府	(博多)	→ 浜男→ 箱崎→ 博多	→ 赤間→ 八並→ 畦町→ 青柳	→ 黒崎→ 石坂→ 木屋瀬→ 長谷	→ 長府→ 下関→ (渡海)→ 大里→ 小倉	→ 船木→ 厚狭→ 吉田→ 小月→ 清末	→ 二俣瀬 → 佐野→ 岩淵→ 大道→ 小郡→ 嘉川→ 山中	→ 夜市→ 戸田→ 富海→ 宮市	→ 福川 → 浅江→ 下松→ 久米→ 遠石→ 徳山→ 富田	島田 柳井→波野→瀬戸→三輪→大塚→光井→	行程
			島原城下			宮がおいて、「おおります」という。		清水寺		社・五穀神社・善導寺・高良神	太宰府天満宮	宇美八幡宮・太宰府天満宮	博多・福岡城下	宮椎宮・名島弁天・箱崎八幡			小倉城下	住吉神社	玉祖神社	満宮 国分寺・五百羅漢寺・宮市天	遠石八幡宮		参詣地・見学地

4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
周防	周防	周 防	周長 防門	長 門	長 門	長 門	長 門	長 門	長 門	長門	長門	長 豊 筑 門 前 前	筑前	筑前	筑肥 前前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前
施→余田→新庄→柳井 → 大迫→守屋→大塚→ 三輪→ 瀬戸→田布	垰→三井見留間 →	→ 宮市→ 富海→ 戸田→ 夜市→ 福川	→大屋→明木→佐々並→山口	(萩)	(萩)	(萩)	(萩)	→ 三見→ 玉江→ 萩(東田町)	→ 深川→ 沢江→豊原→ 三隅→ 宗頭	→ 猶原→ 西市→ 大河内→ 八幡ヶ台→ 俵山	→ 長府→ 清末→ 小月→ 田部→ 中山	→ 小倉→ 下関	間→ 陣原→ 黒崎 → 赤間→ 永谷→ 新延→ 底井野→ 大隈→ 中	→ 志賀島→ 奈多→ 新宮→ 福間→ 畦	→ 吉井→深江→前原→ 今宿	→ 徳須恵→ 唐津→ (海路)→ 浜崎	→ 内田→ 武雄→川古→ 本部→ 大川野	→松原→(海路)→彼杵→二ノ瀬→嬉野	→ 古賀→ 貝津→ 今村→ 津水→ 小松→ 大村	→ 日見→ 網場→ 矢上	(長崎)	(長崎)	(長崎)
	花岡八幡宮	泰雲寺・禅昌寺・宮市天満宮	多賀社・祇園社・山口大神宮	芝居見物	萩城下見物・岩国屋敷	天樹院・洞春寺	東光寺・浜崎神社		大寧寺			亀山神社・阿弥陀寺・円浄寺				虹の松原・諏訪神社		桜の馬場	大村城下		長崎見物	長崎見物	長崎見物



寛政八年柳井村小田氏の旅 行程表

月日国名

4

周防

-	→阿蘇神社→内牧	→ 黒川→ 湯谷	→ 植木→ 熊本→ 甘木?	→ 高瀬川→ 木葉	→ 江浦	→ 清水寺→ 柳川	→ 高良山→ 久留米→ 一条	→善導寺	本依		→ 福岡城下→ 博多→ 穴井→ 宇美→ 太宰府	→ 浜男→ 博多	赤→ 畦→ 出合	→ 小月→ 長府→ 下関→ 大里→ 小倉→ 黒崎	→ 有帆?→ 埴生	路)→新泊 → 櫛ヶ浜→ 久米→ 徳山→ 富田→ 福川→ (海	柳井→平生→麻郷→室積→島田→下松	行程
	阿蘇神社	数鹿類ヶ滝・刎橋	本妙寺清正宮・熊本城下	八幡八幡宮		清水寺・柳川城下	善導寺・高良神社・久留米城下	善導寺		太宰府	御山権現社・宇美八幡宮	香椎宮・箱崎八幡宮	上原天満宮	忌宫神社 (二宮) ・小倉城下			普賢寺	参詣地・見学地
4	4	4	4		4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3		3
8	7	6	5		4	3	2	1	29	28	27	26	25	24	23	22		21
周 防	周長防門	長門	長門			長 門	長 門	長豊 門前	豊前	豊前	豊前	豊前	豊前	豊前	豊 豊 前 後	豊 月後 後		肥 後
川→ 冨田→ 徳山→ 遠石 → 宮市→ 牟礼→ 浮野→ 富海→ 戸田→ 夜市→ 福	→山口→柊	→ 明木→ 佐々並	裁	\$ 夏 7 三 ¾ √ 兼 本 用	会項→ 長工→ 茨春 丁	こ	→ 長府→ 小月→ 田部	→ 下関	→ 大橋→ 谷→ 広野ヶ原→ 幸の内→ 小倉	→ 求菩提山→ 国部→ 福原	→ 帆柱→ 千燈→ 沢田?	→ 毛谷→ 英彦山 (豊前坊)	→ 羅漢寺→ 平田→ 津民谷→ 槻木→ 栃木	→ 宇佐八幡宮→ 四日市	→ 小松→ 花牟礼→ 椎屋→ 江良→ 原口→ 下副	→ 菅原→ 松の木→ 森		→ 長蔵→ 小国宮原→ 北里
国分寺禅昌寺・宮市天満宮・羅漢寺・	瑠璃光寺・常栄寺ほか	棒八幡宮	岩国屋敷・城下寺社	<u> </u>	成	大寧寺			戸隠山権現・松露岩屋	求菩提山	英彦山神社		羅漢寺・洞門 (樋田の刳抜)	宇佐八幡宮	椎屋滝・新田明神	月	京 天 茜 宮 ・ 争 月 芋 ・ 崔 刂	土田滝・北里神社

3

20

肥後

4 9 周防

布施→柳井 → 久米→ 大呑→ 下松→ 島田→ 的野→ 瀬戸→ 田 19

肥後

3

17

肥筑後後

3

18

肥後

3

16

筑後

3

15

筑後

3

14

筑後

13

筑後

3

12

筑後

3

11

筑前

3

10

筑前

3

9

筑前

3

8

筑前

3

7

筑 豊 長 前 前 門 3

6

長門

5

周防

凡例

- 一、当史料は、平成二十五年度山口県文書館古文書実践講座におい
- て、受講生が解読したものである。
- 、漢字は、原則として常用漢字を使用した。
- 、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」
- (は)を除いて、原則として平仮名に改めた。
- 一、適宜、読点および並列点を付した。
- 一、抹消部分は、原則として訂正部分をそのまま本文とした。
- 、改行や割注は原則として原本のままとしたが、意味をとりやす
- くするため、改めた場合もある。
- 、説明として加えた傍注は、()で示した。
- 、本文右上に小活字()書きで付した数字は、講座で用いたテ
- キストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。
- 、各条文の年月日部分はゴチックとした。
- 、判読困難な箇所について該当部分の写真を添付した場合がある。

道中要用諸控当座帳

大 大 三瀬 円 塚 市	波 柳 井 出立	每 日 荷 物 改
夫より大塚より附より大日道 千左衛門殿方二て中飯いたし、 (天日堂) 二て休足、夫より三輪市広屋	夫よりはの市町はずれ 歯兵衛殿方ニてしばらく休、 歯三月十日出立、樫小路の	(素紙) (表紙) (表紙) (表紙) (表紙) (表紙) (表紙) (表紙) (表
福富徳山城下	影问石社	遠櫛 久 下 穴魚浅 橋 島 島根 野 三 井 でん 大 な が が が が が が が が か が か か か か か か か か か
福川ニて上宿戎屋万蔵殿方へ路ニて御座候、夫より富田三町有、路ニて御座候、夫より富田三町有、	此石凡弁慶岩程有、 尚又ヨヲゴウ石社アリ、 ニて仲飯いたし、八まん宮参り、	あり、参詣いたし、夫より南 一世とさして三ツ井江出、此所 左七坊主殿の庵二て休、 春風に松も音なき野末かな 野原松原二しはらく休足、 此所根上り松二三本あり、 島田市、松村屋二て一宿、 合を辺。 (漢江) 一日早朝出立、島田川ヲ (漢江) たて休足、夫より久米村江出ル、 上の松二三本あり、 上の松二三本あり、 高ヶへり二て穴あり見物いたし、 で松町江出、町はつれ 二て休足、夫より久米村江出ル、 上のが浜ヲ沖二見て遠石

嘉川			小郡	大池 岩淵·大道	玉祖神社	佐野村	佐波川船渡し			天満宮		五百羅漢	国分寺	名物餅	椿峠·浮野峠	芝居者			戸田・富海	夜市	
賀川此処ニて駕かり、	の間ニ近道有、小郡より	尤大田や与右衛門方ニて、是迄	アリ、夫より小郡ニて中飯いたし、	岩渕、大道、此所ニ大池	此所ニーの宮参詣致ス、	船渡し、五文宛、佐の村船渡し、五文宛、佐野	△十三日朝出立、夫より佐波川	市川源右衛門殿方へ一宿、	参詣、夫より鳥井江出る、当町	山端ヲ通り、天満宮社江	⑤	参詣、夫より五百ラカン	宮市町江出ス、国分寺	休足、名物餅アリ、夫より	ツバキ峠・ウケノ峠ニて(神些) (著事件)	(学)	中飯ヲいたし、其節宮市戻	少し坂アリ、此所ニて休、	夫より戸田富海通り	いたし、矢地此所ニ峠アリ、	泊り、△十二日早朝七ツ時ニ出足
			小倉城下	番所改め	大里	往来改め	渡海	下関	長 府		小月·清末	一年之)	吉田	厚 狭		住吉神社	ì		二俣瀬	川渡り	中
一宿ス、当所ニて此亭主手引	此方さし合ニて目薬屋方へ	宿小串や武平殿方行、	城下江一里半行て〇	七ツ時ニ大リ上リ、此所御番所改アリ、夫より小倉	大リ行、尤船中甚宜敷候で	(光野) ニつく、往来御改、早速出船有て、壱人前八十文、	行、此処渡海、長府屋孫八郎、	二て中飯いたし、畑屋宗右衛門、夫より下ノ関	夫より長府二里、此処町はすれ	あみや和介、△十五日出立、	小ツキ、清末ニて一宿、尤(小月)	川有、渡賃三文宛、夫より®	此処より馬かり、夫より吉田ヲ通	浅町ニて中飯いたし、	(東央) 有て是ニて休、夫より壱里行、	行、船木村通、此処住吉社	△十四日朝出立、夫より壱里半	方ニて一宿	しばらく行て双また手、万蔵	川有、渡賃三文宛、夫より	是より上山中・下山中通り、此処ニ

孝子正介塚

孝子正介殿塚六丁の道

長谷

木の瀬町はつれニ川二ツ有、渡賃先五文

夫より二里半行、長谷に

長谷村藤介殿方へ留り

扨しばらく行て、筑前

木屋瀬

茶屋 銀

いたし、いてうの木、茶や

石坂

かり、石坂二て仲飯ヲ

黒崎へ三里、此所ニ駕ヲ

小倉之国境アリ、夫より

木やの瀬ニて休、此所(宋屋瀬)

誠二大木なり、夫より

ニてしばらく休、但此木

右赤間左り飯塚の

(ママ) 但し赤間通り行、追分道印アリ、但し赤間通り行、

後三文、此分船橋なり、

宿ス、尤道あしく、宿

尤夜五ツと時ニ着、

二て、折節雨ふり込リ入申候、 (困り) (困り)

畔町 八並

太閤様水

赤間

城内見物

筑前小倉国境

出立、半道位行、筑前

次第にて御座候、△十六日小倉

二て城内見物致ス、宜敷

太閤様水アリ、アセ町(畦) 駅アリ、夫より八ツ成と云所(八並) 少し坂アリ、夫より赤間

印あり、夫より二里行

アゼ町より二里行、青柳(畦) ニて仲飯ヲいたし、角や儀右衛門方

駅イヨや定平殿江

青柳に留ル蛙の一夜かな

支

前文アリて

当所ニて一盃のゑい侭

御礼印転リて

柳と柳結ふちぎりも春の風

洋峨

青柳に留りて見れバ春雨の音そ淋しき旅のうたゝ寝

旅に寝ていとゞ音ます春の雨

△**十八日**五ツ時出立、今日

青柳村定平殿ヲ

(マミ) 雨ふり申候、壱里位行 大閤様水アリ、此所ニ地蔵

地蔵堂

太閤様水

青柳

戻りて猿田彦神の	猿田彦石
多の即申ドアノ、三回で香椎宮参詣、此御宮ニ	香椎宮
夫よりはもを村江一里第(浜男)	浜男村
休む時先とて拝む地蔵尊	
堂、しばらく休、	

猿田彦 名島弁天社 越て松原アリ、夫より半 の道印なり、此山を 立石アリ、名島行 道位行、名島弁天

神功皇后皇コウガウ三かん。(三韓) 御タイシ時船帆柱アリ、 石二成て有之、夫より川 社参詣、此沖ニむかし

夫より浜江出、高燈路を行籠 千代の松原壱里位有、

船渡しを通り、船賃五文宛、

千代松原

目当テ行、箱崎の

鳥井江出、松原を通り 八幡宮様へ

五六軒有、夫よりはかた(博多) 参詣、此近所ニ茶や

博多 茶屋

> 福岡城下 名物帯地

東照宮 帯地を買、夫より福岡

御開帳 参詣、百文、御開帳いたし見事くく、 城下見物、東照宮江

いろく、御宝物アリ、

警固神社 参詣、四五丁行、住吉 夫より警固神社江

を所 新四国八十八 社江参り、此所新四国

櫛田神社 浦道ヲ通り櫛田 八十八ヶ所アリ、夫より

祇園町焼物師 ぎをん町焼物師 (祇園) 此近所二

(室武) 少々相求メ、猶又

惣七殿方ニて焼物

むろ武問屋釜屋

与七郎殿方へ参り何か

噺合仕、送り物など

柳町茶屋夜店

官内町三河屋介次殿江

夜店見物いたし申候 △十九日朝よりはかた町(博多)

与左衛門殿方ニて名物の

亭主浄瑠璃御馳走 はせ屋九兵衛殿当所 相頼置申侯、此節 抔相頼送り申候、今晩宿 ニて御目ニ懸り、状

浄瑠璃

△廿日はかた出立、三里行ウミ (博多) (早美) 相成申侯、三味線鶴沢松之介

八幡宮様参詣、此社内後ニ

宇美八幡宮

仲哀天皇御陵 仲あい天皇様御みさゝき うふゆ水アリ、楠木大木多し、

楠木大木

太宰府道 此所ニて茶屋あり、仲飯 いたし申候、夫よりさいふ道ニリ、(室府)

山アリ、宝満山の下ヲ通り

宝満山

石炭山

山道なり、此間ニ石炭

寺主坊様江行、 宰府江出申候、坊宿

太宰府

八ツ時ニ着、夫よりいろく

仕舞などいたし、今日

天満宮様江参詣、尤

寺主坊様御案内ニて △廿一日朝五ツ時参詣、尤

五ツ二部時ニ御供上り

榎木宮

天拝山

半道余り行湯の町

見物、天はい山ふもとにて(天拝山

いたし、夫よりはるた村・
筑前・筑後、此辺国境なり、原田村)
つくし村茶屋二て仲飯 拝し申候、此湯の町より

筑紫村茶屋

筑前筑後国境

道追分なり、夫より

基山口村 原田村

木山口村、此町より善道寺

善導寺道道会

行、大キなる野原

小郡町江留ル、宿アリ、誠ニ広くへく かどや庄二郎殿、

雉子の声寝むる野末のたびつかれ

御開帳 夫ヲ拝ミ申候、猶又

御宝物御太刀其外

拝ミ申侯、御社内飛梅

名劍いろく〜御開帳

飛梅

数々有、夫より四ツ時ニ 老松宮其外末社

出立、宰府町より十五丁

位行、ヱノ木宮と

申て天満宮様御幸 御たび所なり、参詣

野原

此木山口村より五六丁も

高良山	追 茶屋 村	盖克思学士		筑後川舟渡	藤の棚 ふしぎの松	北野天神	竹の架け橋
夫より高ら山江十八丁 (高) (高) (高)	いたし、駕をかり追分此所町茶やニテ仲飯	裏明より参詣、大寺也、外船渡しより善導寺がんざしも他生のゑんや藤の棚がんざしも他生のゑんや藤の棚	これでは、一つでは、一つで、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つで	の沿度アリ、丘文市、夫より壱里位行筑後川、飛梅其外庭見事、	藤の棚見事くく、猶又松アリ、霊木也、社内ニ	ニて休、夫より北野ゝ天神様 夫よりコガの茶や (舌質)	夫より壱里位行、竹のかけ橋有 △ 廿二日 、小郡早朝出立、 旅人の寝むる野末や雉子声
野町大塚本	茶屋	第 往 月			市 五穀神社	新清水観音	久留米道 高良神社
アリ、野町と申て茶やニて夫より羽犬塚と申て町	此間ニ折々茶屋アリ、久留米、真言寺大寺アリ、	を は、 此所筑後川 と申て大川なり、 夫より と申て大川なり、 夫より	去より瀬の下尼御前社江通り城下見物、通り城下見物、	竹屋三留ルでは、宿り、「「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」	参詣、項目市ニて振壱里行、五穀神様へ府中町江出、久留米へ	様アリー景色見事く、此所ニ新清水観音	御山より久留米道へ拝見、其外御山見事くく、坂なり、参詣、御社

茶 北 原屋 関 町	杉の並木	野町 山細工 軽業・	清水寺開帳	乙 清水 観音	本 川久 吉 領留 村 境 _米 柳	舟 清 尾
茶屋ニて仲飯いたし、是より別夫より原の町北の関見事成事なり、	ヨリ杉の並木なり、 本往来なり、此野町 野町江出ル 此所ヨリ	ます。 () では、) には、) では、) には、) には	扨頃日清水寺開帳、夫よりモトヨシ江下りて、	御山景色見事く、、 一会前、八田の滝其外 一会前、八田の滝其外 一会は、一会には、一会には、一会には、一会には、一会には、一会には、一会には、一	、	(す)、日本の日本のでは、日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本のでは、日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日

南関	の御国境アリ、此間ニ大分坂アリ、南の関
御番所	江入、此所二御番所有、
往来手形改	往来手形御改有之、
	夫より町ヲ少し行一宿、
	米屋卯介殿、
	尤今日雨ふり、七ツ時ニ
	早留り申候
	△廿五日、南の関より朝出立、天気
	相成、夫より壱里位行町アリ、
	夫より又壱里位行町アリ、
四十八坂	南の関より植木迄間四十八坂
	と申して坂数々あり、関より
山鹿	五里行、山鹿と申町ニて
湯	仲飯いたし、此所湯アリ、
	山鹿より壱里位行(窓)
	町アリ、何分坂多し、
はら切坂	別而はら切坂と申て大坂
	アリ、南の関町はづれニ
道標	右キ高瀬通り、左り山鹿
	山鹿ョリウスキ迄三里也、

^{筑後肥後国境} 壱里行、筑後・肥後

の御国境アリ、此間ニ大分坂アリ、南の関

植木

此ウヱキニー宿致ス、

熊本城 茶店 桜馬場 藤崎宮八幡 清正公神社

桜馬場、社内ニ茶店 なり、扨下向藤崎宮 参詣、杉馬場御門内より 仲飯などいたし、清正公社 城下新町壱丁目八百や 但ウヱキより熊本へ三里、 道なり、小村を二町行、 出立、此村より往来切ぬき 有、参詣人賑わしき事 武七殿方江泊、昼四ツ時着、

熊本

魚屋喜平治殿、

△廿六日、朝ウヱキ

盗人島

盗人島と申島ニて暮方

候故、半道位堀川ヲ出、

出船いたし候所、風あしく

宿八百や武七方、但新町 近辺見物いたし申侯、 八幡様江参詣、御城

島原湊

に島原湊江着申候、

島ヲ出船いたし、夜四ツ半時

時二順風二相成、高橋盜人

珍敷見申候、扨暮六ツ

申魚の数々磯ニて遊び

所·往来改 霑苮 九十九島 申て数々面白景色、小 吹出シの島々九十九島と 誠ニ此所已前ウンデン山(雲仙) 湊山伏イトクヤ郡治殿方へ しまあり、船宿島原 △廿九日、島原みなと、此所御番所ニ而往 宿致し申候、尤船賃壱人前三百文

壱丁目

島原渡海

九ツ時ニ出立、

熊本越中守様、今日

出立、夫より壱里行高橋

△廿七日、雨ふり、四ツ時に

大田屋伊七方ニー宿、但し

高橋出船

候而、早朝船二のり高橋 島原〈七里船渡しなり 人士八日、天気二相成り

呉申侯、此湊ヨリ八丁

尤宿郡治殿より世話致

壱人前廿四文宛二而 相調

来御改アリ、猶又揚切手

磯遊び

ムツゴロウ

コブいしを拾ひ、元五郎と *写真参照

磯遊び、蛤ヲほり其外

迄相見合居申候、此所ニて

守山·山田 多比良 御番所 有喜 島原領·佐 野井·愛津 空閑·湯江· 三会町·東 島原城下 通りサイゴ、いふく村 (+黒) (神代) (カ郷) (伊福) (多比良) 御改あり、島原領・佐嘉(佐賀) 愛津、此所御番所、 立、夫より森山、山田、 (守山) (守山) 夫よりみゑ町、東コガ、湯江、 ウキ町ニて仲飯いたし、 領境なり、此所愛津・ 往来島原湊揚り切手 相成申候 両日共念入御馳走ニ 休足仕候、尤七ツ過より天気相成申候 又々無心申候て今日ハ よろしく宿ニて御座候 隠居ニて一宿いたし申候、甚 酒屋ニて御無心申宿ヲかり、 行御城下見物いたし、 **愛津ヨリカラコ、夫より** いふく村より三里場所也 イフク村酒屋早下藤介殿、

> 矢上 江浦 日見峠 大徳寺 長崎見物 長崎 唐人屋敷見物 長崎往来道 石原道悪道 夫よりヤガミニー宿致ス、 (矢よ) 小坂あり、誠ニ込り入申侯、 里計り、石原道の悪 大地之天タイ宗也、唐人 四ツ時着申候、夫より町寺々 坂あり、矢上より三里行、 坂二相成申侯、尤長崎往来 ヲ見物、大徳寺御朱印地 兵衛殿方へ参り申候、昼 長崎江戸町河内屋吉郎 道よし、日見峠と申て かり申候、五十丁道四里之間 今日ウキよりヤガミ迄駕 ヤガみ宿、松尾市郎右衛門殿 此間二四里有なり、段々 みちなり、其上五十丁道、 夫より江の浦、此辺七八 屋敷山の高見家ヨリ △二日ヤガミ出立、此所より

見物、凡家五六十軒も有

今晚丸山夜店見物二行、

いたし、逗留仕候

逗留いたし申候

所見物いたし、尤千人 猶又西泊戸町両番

夫より町々見物、目鏡橋

蔵屋敷、ヲランダ屋敷其外

唐人船五艘居申候

△四日、町々ニ而少し買物

△五日、早朝より雨天ニて

△六日、曇り日和折々

雨ふり、唐人船見物、

祇園社、東照宮社、清水寺参詣

此寺内ニ大釜アリ、夫より

貝津

今村峠

小津松水

大村城下

夫より小松、此所より壱里行、

今村峠と申坂アリ、つみす、(津水)

カイヅ、此カイツより近道アリ、夫より今村、此所ニ(『津)

△七日、矢上出立、夫よりコガ(音賞)

戎や万四郎殿宅江

一宿、矢上迄三里なり、

アバ浦、左手ニ沖ヲ見へ申候、(網場)

網場浦 日見町 日見峠 日見峠、日見町、夫より

長崎出立

町見物

福済寺

諏訪神社 聖福寺

聖福寺唐寺也、諏方大

福済寺唐寺也、夫より

△三日、町見物、寺々参詣

松の森芙神社

明神御社、松の森天神社、

此所ニ而茶屋アリ、仲飯いたし、

時ヨリ長崎出立仕、夫より 番所と申候、夫より九ツ

矢上江

矢上

皓 与

興福寺唐寺也、皓台

興福寺

崇福寺

寺、崇福寺唐寺也、

いづれも唐寺、門額れん、黄檗名僧也、籐

隠元・木庵・鉄牛、其外名僧筆、

大村城下、一宿いたし申候

かど松屋丈左衛門殿

△八日、早朝大村出立、

夫より桜の馬場アリ、誠ニ

桜の馬場

花盛り節者宜からん、

松原江弐里、此松原より

松原

船頭おたや・おかめ

そのぎ迄三里之間船ニのり

船賃壱艘弐百文位かり

切り、壱人前三十文位

そのぎ船付、夫より二の瀬村ニ

大楠あり、此内穴あり、畳

穴 大二 被 横 横 村

徳須恵	駒鳴峠			大川野	唐津領御番所佐賀領御番所	伊万里道標	川古·本部	<u> </u>	内田·武雄				嬉野湯	御用茶売所	名物茶	嬉野	往来改め	御番所	領境 大村領·佐賀	俵坂	
夫より徳末、大川より弐里之所也、	行、駒鳴峠と申して坂有、	△十日、大川野出立、夫より少々	一宿いたし申候、弥八郎殿	所あり、夫より大川野	御番所、唐津領御番	伊万里道印あり、佐賀領	川古、本部、此辺より	ニて仲飯いたし、夫より	嬉野、内田、夫より竹尾	日和相成申候、嬉野出立、	相成、今朝五ツ時過ニ	△九日、昨晩より雨天ニ	泊、此嬉し野ニ湯あり入申候 (3)	則御用茶売所、小筒や喜兵衛殿	一宿、此所茶名物相求、	ねあり、夫より嬉し野江	あり、往来持参事御たづ	境なり、此所御番所	少し行、大村領・佐賀領	俵坂と申て坂あり、夫より	三四枚敷も広サなり、夫より

䂮 松原 加部島 玉島川 舟渡し 唐津城下 神功皇后社 諏訪大明神 長虫まじない 松浦佐用姫 あり、写 尤此辺近所二松浦佐保姫 (松浦佐用姫) (松浦佐用姫) なり、浜崎より十丁位行 てモラヱハ長虫のまじない カベしまに松浦佐世姫の姿石(加部島) (松浦佐用姫) (名護屋) 此所玉島川と申て て神后コウ宮様御社、 御社あり、此御宮の砂を替 続たる松原なり、風景 の休給ふ石あり、但シ唐津 此徳末村ニて駕ヲかり三里 古跡なり、此御社ニ印石 浜崎、此所ニ諏訪大明神 よろしく所なり、夫より 六文宛、夫より松原二里位 扨唐津城下より船渡し アリと聞申候、城下より三里位、 筑前亀井昱敬撰并書 神后垂綸石碑

とアリ、尤いろいろ文言あり

浜
一供

扨玉島より浜崎江戻り

宿、万屋弥介殿

御領、中津御領也、深江ヨリ 古井、夫より深江、此近辺対馬 一中飯いたし 中飯いたし 上げの対馬

吉井·深江

トモ綱石

弐里行今宿ニ留ル 御領御番所あり、夫より

藤屋伊三郎殿

今宿

筑前御領御

弐里行、前原、此所より筑前

△十二日、今宿ヨリ志賀

四百文払、便船ニて参詣 の宮江船路三里なり、

申所江出、誠ニ沖ハゲン (玄界灘) 計三里行、なたと祭多 夫より鹿の島より浜道(志賀島)

志賀島

カイなだニて浪の音

玄界灘

高く、浜路三里ニ込り

飯いたし、夫よりしん宮江出、 人申候、扨此なたニて仲

新宮

福間

江出

ル、

夫より

壱里行

アゼ町かとや儀右衛門殿方ニ(畦町) 宿いたし申候、

畦町

永谷村 赤間

より雨天相成、尤八ツ時

△十三日、アゼ町出立、今朝

ヨリ天気相成申候、夫より

此町より六七丁も行、茶屋 赤間ヨリ永ケ谷村、

茶屋

新延村 夫より新延村、尤此永谷、 アリ、此所ニ而仲飯いたし

黒崎へ近道 此茶屋より黒崎迄近道

アリ、至而道よし、其上

壱里余りも近し、近来

道よし、扨にのぶ村より 御国主様御通路ニて誠ニ

そこいの、夫より大熊、此所ニ(底井野)(大隈) を

里行木月村、

夫より

底井野

川 大渡 隈

川渡しアリ、壱人前五六文

夫より中間村、陣の原、 位、尤頃日水増ニ付十文宛

二出申侯、誠二此近道者 夫より壱里行、黒崎駅

黒崎 陣の原 中間村

譶札

旅人留と申て高札

通り申候、下り之節ハ黒崎 立御座候へ共、大方此道へ

清茶長 稲円阿亀 末屋府 荷浄的山町寺 社	下 渡 往来改め	大 赤 里 郡	小 黒 陣の原 下
船賃百文宛、船宿長 府や孫八郎殿方へ立寄、 三月世七月出 然ル所柳井より書状到来 拝見仕候、長府や差図 二て肥前や徳右衛門殿 方へ留り申候、尤今日 「阿弥陀寺」 亀山宮、あみだい寺 円浄寺、いなり町見物 いたし申候 公十五日、下の関出立、夫より 長府、此間の茶や二て仲飯いたし、夫より清末、夫より	よろしく八ツ時ニ下の関ニ着、有て渡海いたし、順風御改あり、此所ニ=出船	小串屋武平殿方江立寄 様子聞、夫より壱里行、 赤郡と申所ニて仲飯いたし、	三里、小倉城下江出、扨 二里、小倉城下江出、扨 で黒崎はりまや勘七殿 町はづれより陣の原江出ル也
三隅 (集) 八幡 久台	大河内 内	石原道	中田萩小川田部道月
三里行、八まんヶ田二一宿、 大保山共着、鳥や彦左衛門方へ 大日、俵山出立、夫より 深川太寧寺参詣、誠二 禅宗の大寺なり、御山内に 大内義隆公其外御一門 御家臣達之御墓あり、 防長両国の寺頭と承り申候、 夫より湯、此辺ニあり、扨 深川市二而中飯いたし、 夫より沢江、豊原、三隅	かり、夫より大河内を通り二て中飯いたし、此所ニ而駕ヲ	段々宿借かけ申候得共 差合、彼是込り入申所、 真宗寺西念寺泊 「®) 石原道ニで込り入申候 (®) 石原道ニで込り入申候	夫より壱里、中山村に一宿、扨小月より壱里行、田部、田部、上がより十六里位、

天樹院 城内見物	家臣屋敷	中の惣門	町見物		清光寺	住吉神社	兵御殿	芝居見物	引注寺浮島	7		東光寺	松本		萩城下	玉江中渡し	三見·玉江	七曲坂		宗頭
当山テル元公様御タマヤ参詣、御城内拝見、天寿院御城内拝見、天寿院	御屋敷景色拝見、猶又	中の物門ヨリ御家中方	△廿日、町々見物、夫より	参託明	夫より町へ出、清光寺へ	浜崎住吉社参詣、	御浜御殿の前ヲ通り	芝居ゴヤ見物、夫より	夫より弘法寺浮島へ出、	誠二美しき事なり、	御位はい殿・御塔江参詣、	通り東光寺参詣并ニ	△ 十九日 、天気相成、松本ヲ	位行、東田町吉崎平吉殿二一宿	壱文宛、萩城下半道	夫より中渡ヲいたし、渡賃	夫より三見、夫より玉井、	△十八日、朝より雨天相成、むねとう出立、七曲坂あり、	のぼりや清左衛門殿	を通り、ムネトヲニ一宿、 (宗頭)
				垼			内芦	芝		岩	金	中の	春			渥	八幡		満	禦

暑 宝 屋 敷 中の惣門 首神社 屋道満大 屋敷拝見 せめ壱まくいたし申候、 (1幕) (阿古屋) 芦屋道満大内鑑、大席より 御城内春日御社参詣、 元成公様御霊所、毎年(元成) 夫より万ガン寺参詣、御座(満願寺) 并二当御屋敷拝見仕候、 あらし市蔵、嵐三ツ右衛門、 市川三河之介、嵐弥三郎、 中山来介、坂東三ツ太郎、 役者中にも、小川吉太郎、 拝見仕候、 夫より中の惣門へ出、町内 三月中旬千部経有、 夫より八まん宮様江参詣、 敷拝見、真言宗なり、 △廿二日、芝居見物行、 金毘羅御社参詣、 浅尾奥山、嵐富三郎、 △廿一日、町々見物、岩国御屋敷

其外番附委敷有、

	竪小路	石鳥居	山口大神宮	祇園社	多賀社	禅寺				一里塚			一の坂			佐々並		一升谷	明木	大屋村	茨 七
木津屋平左衛門殿方泊	まで戻り、立小路	夫より又多賀の石鳥井	大神宮御両社参詣、	祇園御社参詣ス、	多賀御社ニ参詣、夫より	行キ、禅寺の前ヲ通り、	小道アリ、夫よりしばらく	塚あり、此所より右手ニ	三田尻船場ヨリ五里の萩唐樋ヨリ七里	山口より附二壱里塚、	坂なり、扨此坂ヲ下り、	峠あり、誠ニ高々の	壱の坂と申て名しあふ (3)	夫より壱里半位行	町、此所ニ而中飯いたし、	道わろし、夫より、笹浪	申てしばらく家なし、	駕かり、夫より壱升谷と	壱里行明木村、此所ニ而	壱里行大矢村、夫より (天屋)	△廿三日、萩出立、夫より

花岡 朱 船遠 山口出立 夜市·福川 戸茶田屋 浮野峠 富 茶屋 **禅昌寺** 泰雲寺 鯖山峠 氷上妙見社 富海·椿峠 佐波川舟渡 遠石へ弐里半、船をかり 矢地ニ坂アリ、夫より福川、 後市) 茶屋アリ、戸田ヲ通り 夫よりウケの峠、富海、夫よりつばき峠、 (澤野) (春) 当地天満宮様へ参詣、 町かどやニて中飯いたし、 作事ニ付船渡し賃五文 佐波川、船橋頃日 茶屋アリ休、夫より 禅昌寺参詣、夫より 鳴滝泰雲寺参詣、 参詣、夫より壱里位行、 壱里行、ヒカミ妙見様 夫より半道位行、花岡 久米、此所ニて中飯いたし、 賃八〇四匁五分ニシテ 遠石より 宛、夫より壱里位行、宮市 △廿四日山口出立、夫より 戎屋万蔵殿方泊 鯖山峠と申て坂有 夫より一里位行、鯖山 △廿五日福川出立、此所より

瀬戸・田布大塚・三輪・ 大迫 小周防道 八幡社 柳井津帰宅 庄·土穂石 施·余田·新 諸国宿覚 三井見留間 田布施、余田、新庄、 三井見留間二一宿致、 夫より久保市、たを市、此所 御馳走相成、昼時より七つ時迄、 大塚、三輪、瀬戸、 出立、夫より大さこ江 夫よりかさの土手を通り、 (室野) ヨリ右へ小周防道アリ、 此辺より夜ニ入申候 土穂石と 参り御見舞、尚又 (%) 八幡御社参詣、野村屋ニて 戻り申候、帰宅 もりや江御見舞、夫より △廿六日、昼過見留間ヲ 御馳走二相成申侯、 諸国宿覚

萩 清水吉兵衛殿

御番所入口 八百屋永吉殿

ムロヤ貞仙定宿

大坂や弥兵衛殿新三丁目

河内や吉郎兵衛殿江戸町

三月十日出立

一銀 レ拾目

一表七百目

〆凡カレ

一銭 弐文目

〆凡銀ヨヲヌ

(裏表紙)

室 林兵衛存

小田姓

久留米

中島や領介殿通り町壱丁目

はかた
釜や与七殿

^{坊宿} 寺主坊 下の関長府や孫八殿渡海船頭

終

万於保恵日記

			三月十九日						三月十九日			三月十五日		讃物			
綿印分銀十五匁	「丁〇二ノ四貫七百十七文	がいた を筋 本博多帯 を筋	一銀四十弐匁一		金量与七般方方置置 右室武船ニて参ル事 小火鉢 エツ		鉢	手あぶり 壱ツ	一 一 六 百 文 物 七 物 七	きせる。壱本	一九十五文・小倉二て	三月十五日四月十六日帰安	三月十日出立	諸買物	万於保恵日記	文政六未三月吉日	(表紙)
		四月三日		三月二十六日	三月二十一百		三月十九日		三月二十日						三月二十日		三月二十三百
一同八十文	長崎ニて	一十五文	一弐百八十文	一三十六文	一六十文	たび一壱足	一弐百十六文三月十九日	一四十八文	三月廿日	〆六百八十七文	長崎はさみ壱ツ かし	○弐百十文	1 丁一二 2 四百十	百十二 百十二 下十二 中御守壱ツ 取かへかし	○銀四匁三分	中島屋半介方	一三百文
長崎絵 壱枚		ゆびかね十	肥後真珠丸 七ふく	清正公様御守 三	尼御前様御守 五		筑前ニて	産八幡御守 四		- ·	ツ かし	同人	十 七 文	取かへかし	平のや	中島屋半介方へ遣い物相成分	東子代 東子代

													四月四日					四月三日
一六十六文 唐人絵 大判十二枚	7 一百四文 同さかづき 取合五ツ 同	十錦 猪口盃 廿本	一七百六十四文 同人	(丁〇ニノ九百六十二文	宮十一 脇さし袋相成分	朱かわ代	一銀八匁六分七り 伊セや	一弐百八十文 赤唐扇 弐本	此分少しきづ有	黄丼 壱ツ	一百六十文	るり丼 壱ツ	一三百五十文 長崎 四日	(丁〇二/五百十文	五疋 大十本	一五百三十文はり代	(42)	一六文 らくざ絵 壱枚
	四月九日																	四月六日

	四月十九日		四月二十日	四月士百													四月六日
一四十二文	一百四十文	一七十文	一百四文	小まつや兼蔵殿遣物一三百四文 萩ニ 萩ニ	K	丁〇二ノ四貫二百廿六文	グ四貫四百弐十もん	一百十六文	黒しゆす切代	一弐貫六百文	代一貫六百八十三文	唐さらさ代 弐尺	一銀十五匁	丁〇二ノ九貫百二十文	「 爪かミさし壱本代払	し、九貫五百文	外二銭五百三十文 人
はし五ゼん	きせる壱本	かんざし壱本	きせる壱本			百廿六文	٥ 6	守代四本			尺十三文	弐尺	忠兵衛長崎水野	旦十文	し壱本代払		一十文帯や

一弐百廿文 同人

但、萩札弐匁

五人前飯代三月十五日十五日朝清末	馬賃払出 一三百四文 あさより吉田迄同	一六十六文 昼飯 同 あさ市		三月十四日(十五文) 川渡賃 あさ	五人前飯代	一八百文 万蔵 三月士三日 十三日 ふたまた瀬	弐里半	加川より双ま瀬迄(桑川)(ママ)を作れた	一四百女	大田や与右衛門方	中飯・酒代いろ~~	一百八十六文 小郡	司 五人前飯代	三月十二日(一壱〆文) ・ 市川源右衛門		当家亭主心持
黒崎より木やの瀬迄一六百文 駕賃	三月十六日 一六十四文 黒崎	一三十文 道中茶代	一十二文 はみかき	同心遣いニ付如此	小串や差合ニ付、	一壱と百文 めくすや包	追 ス	一三十二文船頭同下の関		一百文 大り	同豐加国	壱人分八十文宛	但両かけ壱荷六人前	<u> </u>	丈	三月十五日 一八十文 仲飯 長府

黒崎より木やの瀬迄一六百文 獲賞

	三月十九日								三 月 月			三月十七日							三月十七日	三月十六日
東照宮御開帳せん	一百文	箱崎ニて	一三十文	名しまニて	一廿四文	御社手引賃	一同十二文	飯代	一八百文	茶や酒肴	一三十八文	一六十文	△八〆八百四十八文	人足壱人賃	長谷より赤間まで	一百三十文	百四十文宛	飯代	一七百文	一百四文
展せん 1000000000000000000000000000000000000	究前 はかた		茶代	昼飯	弁天		名嶋弁天		イヨや貞平		木やの瀬	仲飯アゼ町	八文		間まで	同人			藤介	仲飯 石坂

			三月二十五日				三月二十四日				三月十二日							三月干百		三月干百
仲飯	一月八十文	南の関より	一百五十文		一九百文 一九百文	仲飯	一廿四文	飯代、七郎冶	一八 百 文	仲飯	一五十 大 文	酒代・茶代	一同百文	飯代	一八百文	茶代	一廿五もん	一百五もん	差導寺より	一弐百七十文
	山鹿	南の関よりウエキ迄人足賃	同人存	米や卯介方	南の関		北の関	沿	モトヨシ村		一條村		同人		竹や		新清水	仲飯	善導寺より追分村迄払出	駕ちん

	四月三日	四月日							四月朔日		三月二十九日
一百五十文 一百五十文 一百五十文	唐人船其外見物 一三百文 長	一壱/文	一 同 一 四 十 文	四里之間駕ちん払	ウキより矢上迄一八百五十文	外ニ香入弐かた包	娘子ニ心附ニ包一百四十四文 四層	二日分	金壱歩、飯代包、一壱〆七百四十文(早下藤介四月朔日)	一 一 一 六 十 飲 文	切手せん、: 三月廿九日
- 川吉	7見物 長崎船賃	矢上	昼飯	写ん払	上 迄	かた包	[三包 同人		代包、早下藤介・イフク村	たいら村	廿四文宛嶋原湊

四月十二日		四月十二百	四月十一日	四 月 十 日	四月九日
十四日朝 一八百五十文 一八百五十文 一八百五十文	一六十四文 仲 同 志賀島へ参詣 一四百文 4た	同 一八百文 一八百文 一八百文 一八百文 一八百文 一八百文 一八百文 一八百文 一八百文	一七百五十文一七百五十文	一五百文 一百廿二文 一百廿二文 一百十二文	一四十文 そのぎ 一四十文 そのぎ
黒 飯崎 茶ヵ飯町 代 や谷代町	参 お か た 動 あ お ち ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん ん	今 飯 信 【 昼 低 飯	飯	で 語 声 津 城 下	そのぎ くわし代 (くわし代
	四月十七日	四月十六日		四月十五日	四月十四日
一十八百朝 飯代 女 飲代 文	一 十七日 十七日 十七日 十七日 大十文	- 大十文 - B	一百十文 同 船ちん入田 一百十文		同 渡海船ちる
宗 宗 藤 左 衛 門	昼 業 ち ん	西市 西京寺	円 下の関 下の関	- D - D - D - D - D - D - D - D - D - D	赤郡・大リ

	四月二十四日	四月二十三百	四月士市
(8) 仲飯・酒肴いろく\ 一六百文 山口より宮市迄 一六百文 山口より宮市迄	一三百六十八文 同	八 三 四三 丁	
(ママ、形カ) (ママ、形カ) (エ〇ニメニ盲四文 (エ〇ニメニ盲四文 (エ〇ニタ八分 三井	(工〇三ノ三百六十文) (工〇三ノ三百六十文) (工〇三ノ三百六十文) 見留間郡や (工〇三ノ百廿八文)	一	四月十四日 福川 四月十四日 福川

〆T○六百拾三匁九分三リ

外二、参せん、道中茶代、わらし代少々御座候

金銀萩札出 三月十五日 ○銀壱匁弐分 小倉 三月十五日 金銀萩札出

一弐朱壱片 黒崎

三月十六日

駕賃入用両替

代八百四十五文

一弐朱壱片 永谷藤介両替

三月十七日

代八百七十文

代八百七十文 一同壱片 青柳両替十八日

三月十八日

三月十九日

代八百九十文 一同壱片 惣七 物前焼物師

一金三部弐朱 与左衛門出同 高瀬や

買物さし引出

代銀五十五匁七分四り

三月二十日

一弐朱壱片 寺主坊

〆八匁五分

代壱×七百四十文 八百七十 国 (寄ヵ) (寄ヵ)

御守七兵衛 壱

一弐朱壱片

三月干肎

追分村、両かへ

三月十九日

○銀壱匁六分 同人出

はかた帯代

一弐朱弐片 介次包 出同 三河や

○銀六匁弐分五り 同人包同

代八百八十文一弐朱壱片 同人、両かへ小払同

林平 壱出

駕ちん入用ニ付

△弐朱ニノ弐両弐歩かし

三月士ョ

一弐朱壱片・小郡、両かへ三月廿二日

代八百八十文

代八百五十文 一弐朱壱片 久留米竹や、両替同

○銀三匁弐分 一條村、両替

代三百五十二文

仲飯之節入用

代八百五十文 (本吉) 出 世四日朝 (本吉) 出

三月二十四日

出

○銀三匁六分 同人 出同 代三百九十六文

一弐朱壱片

三月二十七日

代九百三文

三月二十九日

駕ちん入用ニ付

真珠丸入用 出

三月二十七日 一弐朱壱片

三月 工六日 (8) サ六日分 ウエキ 一弐朱壱片 ウヱキ 代八百五十文

(代二〆七百文 九〇 大〇 東京朱 伊七、両かへ 十八日 高橋大田や

|| 三十八日

船賃壱〆五百文 飯代七百五十文

船中飯代二百文

右入用、両かへ

1 一弐朱壱片 嶋原湊、: 十九日

四月朔日

○銀壱匁三分包四月朔日イトク村

〆両日逗留ニ付

代八百十六文一弐朱壱片・ヤガミ、両かへ同

代八百廿四文一弐朱壱片・ヤガミ、飯代:同

出

はり買之節	代八百七十二文一弐朱壱片 長崎、両かへイル百七十二文	犬人百ご丁ごで 一弐朱壱片 はさみ買、両かへ	が 十錦猪口廿 さかづき代入用	未かっ 代廿三匁八分三り 一金壱歩弐朱 長崎イセや、両かへ 出	四日 ○銀壱匁六分 下女包	一弐朱壱片 同人娘包同 丑F餓仵包 心作ニシラ	注目収入日、ハナニンに 一金三歩 吉郎兵衛 四月六日 川内や	── 絵買方之節入用 出○銀壱匁八分 長崎三日	代弐百八文 ○銀弐匁 ヤガミ宿、両かへ 出四月朔日	△弐朱二/壱両三歩弐朱
	四月十日		四月九日	四月八日	四月七日		四 月 六 日			四月六日
代八百七十二文 一弐朱壱片 唐津	代八百七十五文 一弐朱壱片 大川野 出	一弐朱壱片 嬉野包	代一〆七百文一金壱歩 嬉野、茶代入用	代八百廿五文 一弐朱壱片 大村 出	代八百六十文一弐朱壱片 両がへ、飯代七日朝 矢上	代八貫六十八文いろく、注文前入用、両かへ	六日 代	かんざし壱本 長崎、帯や 出		一金弐歩弐朱 忠兵衛

四月四日

四月六日

四月二日

四月朔日

三月十六日	取替林兵衛						四月十六日		四月十四日			四月十二日					四月十二日			四月十一日		
一銀壱匁弐分かし	三月十六日 取替	68	小玉銀ニノ廿四匁八分五り	〆金子拾両弐歩	鱼 割朱 × 三步	中山村	一弐朱壱片	十六日 代八百五十文	一弐朱壱片	十四日	代八百七十文	一弐朱壱片		₩ -	一代长学工	代八百七十	一卦朱壱片	十二日	代八百六十	一弐朱壱片四月十一日	△弐朱二/五両壱歩弐朱	駕ちん入用、両かへ
かし	林兵衛		四匁八分五り(出)	歩 出			西念寺包	文	黒崎 出		文	アゼ町出		文(全宿船賃プ月)両カイ	 重し 同 、	五文	· <i>给</i>	, No. 17	代八百六十文	浜崎、飯代入用 出		、両かへ
	四月三日					三月一十六日		三月 十 百						三月二十日						三月十九日		
一十八文	一廿四文	三ふくかし	一百廿文	司	清正公様御守	一弐十四文か	尼御前様八	一九十六文	産八幡様御守	一四十八文か	司	丁〇三/九百五十五文	梅御守弐	一銀八匁六分	士 る り カ す 春	めしよかを帯壱筋	丁〇ニノ一〆六百六十五文	一銀十五匁	小火鉢壱ツ代	一廿八もん 第前は三月十九日	小倉ニてコウ薬礼入用	丁〇二/百三十三文
ゆびがねサ 十二	長崎絵壱枚		肥後真珠丸			かし		取かへかし	四	かし		十五文		寺主坊、とりかへかし		壱的	()百六十五文	与左衛門、かし 気前高瀬や	かし	筑前はかたニて	薬礼入用	士三文

	四月二十四日		四月二十二日		四月二十一日	四月十九日	四月十八日	四月六日							四月四日	
七六二 五十四匁五り かし〆四〆百八もん	一世十四	一同八文	一六十八文	遣物入用、かし	一弐百四十文	一三十二文	一三十二文四月十八日	一十二文	一三十文	丁〇三/二百四十文かし	めがね壱ツ	一九六弐百五十文	丁〇三ノ弐百七十七文	一銀弐匁五分	一四十八文	一
全生り かし	山口ニてはし代	扇代	子供草り一足	ì	酒手形一升	薬代入用、かし	萩ニて風薬代、かし	 絵取合四枚	水入二	干文かし			七十七文	赤かわ代、取かへかし	はり五十本、かし	唐人船絵壱枚 *抹消線あり

三月 干日	四月十一日	四月三日	四月六日	四月四日		四月三日			三月二十六日		三月十一百		三月二十日	取替七兵衛
一銀四匁三分三月廿日	西手形一升入用一弐百四十文 萩	一三日	一四十八文 大日	一九十六文 四 ^日	一廿四文	長崎 七文	肥後真珠丸三ふく 一百廿文 かし	清正公様御守 三	一三十六文	尼御前様御守	一九十六文	産八幡様御守 五	一六十もん	取替 七兵衛
寺主坊 かし	入用 萩ニて遣物出 かし	唐人船絵二枚	絵取合八枚	はり壱疋	長崎絵一枚	ゆび かね 十 十 十 十	ニふく	寸 三 l	33 L	八	かし	五	かし	(年)

三月王百 一百五十五文 きせる代 一百五十五文 きせる代

三月二四日 十四日

はし四せん山口ニて

七六ニノ十八匁八分三り

覚所

一長崎二て御見舞 庄五郎殿四月五日 大島むろや

四月五日

一氷砂糖壱曲四月五日 吉郎兵衛殿長崎河内や

一名物まんちう四月廿日 一 徳十郎殿 千草屋

四月二十日

萩御城下宿見舞 持参 百入壱箱

一筑前博多二で御見舞・九兵衛殿三月十九日・三月十九日・はせや

一長崎ニて御見舞 利介殿 鍵屋

| 筑前釜や与七殿方へ 七兵衛存分 雨紙包ニシテ着物預ケ置

(73)

四月五日

一長崎河吉殿存 鍵屋船四月五日 遠崎 びん附捨斤箱壱ツ

但、唐焼もの入ニシテ

一長崎河吉殿存 同人船同 雨紙包ニシテ壱ツ

但、御着物入

其外林兵衛羽をり

いろく

終

筑前国太宰府天満宮江参詣之事

小月

埴生 有帆ヵ

波布まて八里、同所ニ而畔頭(雄生)

出立ニ而小月之片渡り

捅 海路

徳山·富田

之仮り切ニシテ乗船致候、

然者不順二付新泊江

新泊

揚り、藤井吉兵衛殿方へ 一宿、翌六日、夫より小奏通り(宥墓宥帆))

吉のや四郎右衛門殿方一宿、翌七日

櫛ヶ浜

ノ改通り、くめへ出、本道通り翌五日出立、夫よりくしヶ浜翌五日出立、夫よりくしヶ浜室屋也 (衛ヶ底)

徳山へ出、とん田・福川より(富田)

小倉

取候故無拠切手代 廿文宛差出候而相済

逢候処埒明不申、唯様隙

御通し被下候様ニと色々申

44

候手形ニ而御座候へ者

無之候へハ改不相済由被申候

ニ付、是迄之御関所も通し

披見之上海陸御通し候と 御改有之、往来差出候へハ

申候、夫より此間一り余、小倉へ行

御城一見之上、黒崎へ参り、 桶屋嘉市郎方へ一宿、

黒崎

小倉城

壱人前百四十文宛、

翌八日朝出立、上ノ原へ出、

天満宮 上ノ原

近道ニて、唯道ハ下光着へ 宮へ参ル、夫より右へ入込、 是ハ

柳井出立

筑前国太宰府天満宮 江 参詣之事 (一七九六年) 寛政八辰ノ三月四日柳井ノ

Î

忌宮神社

赤間関

夫より赤間ケ関へ出、渡り口

夫より同人船ニ而内裏へ(天里)

油屋才兵衛方ニ而弁当仕廻、

長府へ此間行、二宮社へ参ル、「宮神社」

平生へ罷出用向相調へ 里出立、用事有之ニ付而

普現へ参詣、同所ニ而弁当

仕廻、夫より島田通り下松

磯辺罷越見物、同所ニ而

御番所往来改

着船致候、御番所二而

渡ル、此間壱里半、定八十文、外ニ酒手共ニ賃百文也、内裏へ

尾郷岩倉越通、室積

博多	箱崎八幡宮	香稚神宮	住吉福社甲石	浜男	風呂銭	孝子百 <u>介</u> 墓宗像都竹丸村 豊前坊	出 畦 金 赤 長 木 茶 底 埴 中 合 光 間 谷 月 屋 井 生 間 水 ヵ
通り博多町	八幡宮へ参ル、夫より松原取入込箱崎へ出ル、同所	参ル、夫より社ノ前より左へより左へ入込香椎宮へ	かぶと石有、此町はつれ手前ニ住吉大明神のまて参り、中飯仕廻、同所	九日 出立ニ而はもを (選別) 風呂銭ニシテ相渡ス、翌日	木銭五十文宛、外二十五文	孝子百介墓へ参ル、委クハ別紙有故略ス」「此所ニ而豊前坊へ参ル、又宗像郡竹丸村※行間の記載	半り、中間へ壱り、ハブへ渡ル 単質六文宛、 底井野 ソコイノまて来り、 以コイノまて来り、 此所ニ御茶や有、夫より (永月) 木付キへ壱り、又長谷へ (本間カ) (本間カ) (※消間に記載あり) 壱り、赤へ半り、夫より (※消間に記載あり) 壱り、赤へ半り、夫より (※間点金光水有 あぜ町へ弐り、出合、同所ニ 而

本衣 太宰府 御茶屋 宇美八幡宮 宝万山大権現 御山権現社 福岡城下 (5) (指向) 筑後善道寺方へ志ス、海札頂戴、朝飯仕廻致、 より宝万山大権現之儀ハ。 遠拝、夫より太宰府へ越、 通り産八幡宮へ社参ス、(学美) 町、其余御山権現社、同所選十日、博多り産く三り 行不申、本衣を過、暮二及、 殊外風雨烈敷道はか 十二日本衣通り参懸候処、 拝見、夫より御坊へ帰り 御貴木之梅松其外 猶御宝物拝見、其外御末社、 御案内二而御本社へ参詣、 天満宮御供揚ルノ由、御坊 寺主坊へ着一宿、翌十一日 産よりお方へ三り、天満宮へ弐り 之後御茶屋等見物、 百六十文宛、旅籠之事、 宿や四郎右衞門方へ一宿、 人別

宿心遣致候へ共、何れも百姓

様々宿求一宿致候、翌十三日 屋ニ而旅人宿かし不申処、

筑後川を渡り、善道寺へ

参ル、然処十三日・十四日法会

有之、諸方より夥敷参詣

致、翌十三日朝又善導寺へ(ママ、十四日) におって、十四日) にからに滞留

参ル、何れも美々敷次第也、

夫より追分ケ通り近道へ

通り高良山へ参り、 美々敷次第也 夫より久留米、 養々敷次第也 夫より久留米、 高良より五穀神へ壱リ 高良山へ参詣、是又

五穀神社 久留米 高良神社

御本社・御末社・観音堂何れも

美々敷事也、夫より御城下

蔵八方へ一宿、翌十四日 (一条) (一条) (ママ、十五日) (ママ、十五日) (ママ、十五日) (ママ、十五日) (ママ、十五日) (ママ・カー) (マ

本吉山清水寺へ参詣、甚

本吉山清水寺

美敷次第也、然二当日

柳川御城下へ罷越、御城清水より三里 雨天ニ而迷惑致し候、

見物致、かめ屋孫兵衛

物中止 長崎·島原見

之儀ハ差延、 長崎·島原等見物

肥後之方へ志ス、八ツ時

三池通り

程ニ船より揚り、中島川を渡り江浦 まて罷越、新八方へ止宿、

江浦中島川

廿三リ之間、仮リ切ニして (借) ニシテ、船津川より伊佐早迄(諫早) 有之ニ付、壱人前四百もん宛(文)

方へ一宿、夫より長崎辺、志も

出船不相成、川尻ニ居

乗船致候処、殊外風立

候処、甚難渋致候、

翌十六日も西風ニ而

出船不相成、何れも風 直り候程難計様子

二候故、一応揚陸可致

申談候処、凡道法リ

長崎・島原等ハ往来

さ候へハ殊外日数相

懸り申ニ付、空敷

八十里余も有之由、

(8)

内牧 甘木カ 熊本城 かなくき 高瀬川 阿蘇大明神 数鹿類の瀧 木葉 本妙寺清正宮 翌廿日阿蘇大明神 弐度宛入湯致候、 廿四文宛ニ而一宿致、 江参詣、夫より坊中世間をリギ 人別四文宛湯銭出し

此間カリ半高瀬川を渡り木ノ葉の水川を渡り木ノ葉 垣等見物、夫よりかな木此間三切(甘木力) 湯ノ谷へ罷越、おてふ すかる瀧一見、夫より(数鹿類) 翌十九日、黒川筋 茶やニ而木銭人別 まて罷出、利平次方一宿 御城外之御丸百間石 妙寺清正宮へ参詣、夫より かなく木通り、熊本へ出、本 利兵衛方へ一宿、十八日、植木 町、同所茶わんや 同所刎橋一見、夫より

此間弐リ、翌十七日三池

ニ 而一宿、翌廿一日長蔵通り

人別百七十五文宛之旅籠

鑑の井 木の御所 細川三斎黒 小国両神社 土田の滝 小国宮原町 此瀧高サ百三十ひろ(鼻) 此所二細川三斎公黒木 壱里、此所大社有之参詣 程有之、夫より北の里へ 出ル由、夫よりハンダの瀧 先年より時々鑑自然と 裏山手ニ鑑ノ井有之、是ハ 小国宮原町まで五里、此町 の御所有之、此由緒ヲ尋ニ

被下候由、同人弟ニも三十石 物庄屋二被仰付、知行五十石 御案内仕候由ニ付、永々北の里の 惣庄屋綿貫善助と申者 細川氏御入国之節、此殿へ 往古肥後熊本御城主 夜御滞被遊候由、同所

候処、趣有之名字改 申由、先年之善助家筋

惣庄屋北の里善兵衛と

永々被下置候由、当時

罷出、中屋伝三郎方へ

申候由、是等一見致、同所ノ

此所ニ天満宮之社有之、此を越豊後御境、菅原へ罷越ス北三浄明寺、北西美が 同廿二日シ、上リと言垰

被遊二付、天満宮御社有之、 被遊候砌、暫此所へ御滞り 由緒を尋二、天満宮御下り

且正一位大威徳天神 と言御号を給り、浄明寺

宝物二相成居候由、右之寺 已前ハ天題宗ニ候へ共、当時

真宗ニ相成候由候、夫より松の 木へ出、夫より龍門の瀧へ参ル

竜門の滝

松の木

菅原より瀧まて四リ

此所に龍門寺と言禅寺

あわれ成次第也、此瀧 有之、当寺無住ニ而甚

珍敷瀧成、夫より日中へ此間三リ 出、覚悟ニ而参懸ケ候処、

行懸り殊外迷ひ、不計 最早暮ニおよひ山道へ

森之御城下へ出ル、同町

大津や庄助方へ一宿、人別

百七十文宛也

一同廿三日、森町御城下

大津や庄助方出立ニ而

壱丁余東へ行、宇佐 又小松之方へ立戻り、夫より

小松

宇佐道立石

道と言立石有、夫より

夫より日中へ通リ、小松之辻より 花むれ村と言所へ行、

花牟礼

日中迄壱リ半、此間ニ花

むれ坂と言半リ程之

花牟礼坂

なべ畑垰 難所有、其坂なへ畑垰と

言壱リ半之険阻ノ坂あり、

右坂ノ前より志屋村と

言所有、此所ニ志屋が瀧と

椎屋ケ滝 椎屋耶馬溪

幽谷二而、人のかよひ稀二して 云無双之瀧在、寔ニ深山

物淋しく寔ニ龍の栖力

の所やらんと物スゴク覚

たり、然ニ近来中津之 太守瀧権現へ御参詣

瀧権現

森城下

新田明神

を通り、夫より原ノ口と言所 事と見へたり、夫より 上ゑら下ゑらと言所

賎袖を摺の甚賑しく

安くして、参詣之貴

しゆへ、今ハ人のかよひ

夫より壱丁も平ノ山ノ へ出、新田明神へ参ル、

の底ヲ渡し、凡壱里程

谷·槻木 平田·津民

平田・ツタミ谷・ツキヌキ抔と (津民谷) (槻木) (屋脱ヵ)

49

本耶馬溪

洞門(樋田の

端り通路致来候処、洪水抔之

申村を通り、此間ニ昔ハ川

を通らせ、次の川中ノ石

底を掘抜、本川の水

行テ石高壱石石柱之

所之用水ニ成、此根

今二御座候二付、御領中所務 元間ニ凡八丁余用水

武蔵国の六部

然ニ武州ノ廻国此事を歎き、

発気して凡三十年計りニ

節ハ人馬多ク怪我有之由、

夫より下添村善八方二一宿、 御拝借を以堀貫致候由

廿四日白岩へ移候宇佐

宮へ参ル、御境内ニ楠ノ大木 其中ニ観音様之形

執行して成就致候由、右

申様二出させ、其余ハ近国

人計り之者ハ米壱升宛と

成就仕たる、其間近村之

百姓牛馬持候ものハ米弐升、

石を重テ道を開らき 有之よつて、谷を埋し

東西本願寺

大龍池

渡辺三慶

と医師より首継合置薬有之

有、又四日市之渡辺三慶

付たり、此所ニ大龍池と云大堤

一廿五日朝、末村治惣右衞門方

五百羅漢・千躰地蔵・十六

羅漢其外山内拝見致し、

出立、夫より羅漢寺へ参ル

四日市医師

出ル、此間壱里、両本願寺有、夫より

出来候を拝む、夫より四日市へ

末へ之治惣右衛門方へ一宿、此間半リ

四月市

よりカンギヲ付、上へ上り法界(階段) 六部の墓ハ切貫之中程

地蔵之大キ成ルあり

正面法界地蔵

□二月牌禅宗曹洞真(写真参照)

武州浅草住

如禅海

先祖越後国福原氏 奉納大乗妙典六十六部

供養所

寛延三庚午八月吉日

右之通地蔵有之、外ニ羅漢 石工長州府中住岸平右衛門

寺之麓ニ真如禅海墓も

真如禅海墓

トチノ木と申所へ越、其村ノ(栃木) 有之、石牌有、夫より川ヲ渡

栃 石碑

但スエよりらかんへ四リ、トチの(末)(羅漢)(栃木) 庄屋源三郎方へ一宿

木村へ四リ

廿六日源三郎方出立、夫より

六助之趣向ニ成程、昔吉田 山道へ懸り毛谷村へ越へ、

毛谷村

沢田村

一廿八日、沢田村出立二而、写真参照 求菩提山へ参り、夫より○国部ゎな□越□で

通り福原村へ越、十蔵方へ 宿、但沢田より求菩提山へ

福原村

求菩提山

五り有

壱り、求菩提より福原へ

一廿九日、福原村出立二而

越し○戸隠山大権現并ニ此間壱り 大橋町へ出、夫より○谷村へ此間弐り

戸隠山権現

難所之山越し豊前坊 右京と言もの之家来ニ
而 有之由、屋敷跡も有之、夫より

豊前坊

木より彦山へ五里

之下之茶へ一宿、トチの(屋脱カ)

英彦山

英彦山神社 一廿七日、茶出立ニ而豊前坊へ

参り、法体越ヲして彦山

参り坊中ニ而御守ヲ請ク、 権現社へ参ル、夫より大尊堂へ

同町二而中飯仕廻、夫よりほは(帆柱)

しら村、船頭村ヲ通り沢田(平燈)

千燈村

帆柱村

沢田村

村へ越、新右衛門方へ一宿、此間

八幡台	西市			田部	月月	、長月府		下関	-			小倉	幸之内		広野ヶ原						て不具との企会する。	台屋の重見を	
通り四里、八幡ノ台茶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一同三日、田へより西市	(知) (田部)	方へ一宿、此間壱里八丁	入、田べ町茶やおさい	まて四里、同所より左へ	一同二日、長府通り小月	才兵衛方へ一宿	之運賃ニ而関江渡り、油屋	一 四月朔日 、人別八十文充	一宿、尤人別百六十文充ニシテ	出、船頭町吉田屋喜六へ	順々村続キニ而小倉へ『帰山より五り	之内と云里へ出、夫より	出、大キ成山越して幸	致一見、広野ヶ原へ	(30)	鬼ケ城其外名石数々	致、夫より岩屋をぬけ出	袋鬼之臼大穴等見物	有、拝見致、岩屋之内水	此所二諸仏数々御安置	松露之岩屋へ参り、	天行像へ参り、夫より
				得 程 主 唐 学	:	若東 仲 寺		岩国屋敷	久吾 萩一人役朝枝			j	椿町	岩国屋敷	玉江	宗頭	- - - -	三豊浦	沢江	正明市		深川大寧寺	
	ニ而御本堂・御座敷・御玉屋	御咄致候処、得旨御案内	御目ニ懸り、拝見之儀	御弟子得旨·唐学御両僧〈	和尚柳井〜御出ニ而御留守故、	東光寺へ参り候処、若仲	等委敷拝見、夫より護国山	御目ニ懸り、御屋敷御座敷	出、御壱人朝枝久吾様へ	一同五日、朝五ツ時より御屋敷	(22)	着致し、御城下町一見、星丸ツ時過	椿町へに屋善石衛門方へ(紅屋)	出、岩国御屋之下へ着、夫より	と言所を通り、玉井中ノ渡りへ(玉江)	一同四日、夫より宗とう村	ニ 一宿	三すみ市、四里半、半右衛門方(三関)	市へ出、沢江通り、豊浦町、	御ハカへ参ル、夫より小名之	参詣、且又寺内大内公	夫より右へ行○台室寺へ○府川(深川大寧寺)	屋二而中飯仕廻、弐里

	明木・佐々並	天満宮										利	滔 睛 宫 崎八幡	御鳥部屋	東苑茶屋	洞春寺	満願 天樹院			萩城内見物		
百五十充之旅籠ニ而止宿市へ出、九郎右方衛門へ人別	大屋口、明ら木○佐々并恭唐徳より弐り・此間弐り(佐々並)「『月月177年17年17年17年17年17年17年17年17年17年17年17年17年	司所天満宮へ社参、夫より		中販過二春町出立二	買物等も有、漸々	同行中より差遣候、其外	上半紙弐束、孫兵衛持	得旨様御方へ為御礼	一同六日朝、東光寺御内	へに屋方へ罷帰ル	(正量) 拝見致、暮六ツ過ニ	御城大手等委敷	宮崎八幡、稲荷社	御茶屋、御鳥部屋、	妙久寺、唐ゑんの	万願寺、洞春寺、	被成、御城内天寿院、	(3) (天朝元)	御事二而彼僧御手引	御城内見物致候様ニとの	得旨樣御心入二而萩	其外委敷拝見、夫より
	遠石	徳山	富福	夜市	戸田	春富卡海	浮野 牟礼村	国分寺	羅漢寺	天満宮	宮市	Í				柊大明神	 	山口大神	多賀神社	常栄寺	瑠璃光寺	山口の坂

出 妙 見 社 大神宮 神神社社 **光** 坂を越○留利光寺、同所此間三り ○山口〈出 瑠璃光寺) 一同七日、佐々並出立ニ而市ノ(1の坂 社へ参ル、夫より ○比ら木大明神山口町より壱り半(柊) 等へ参ル、夫より氷上山妙見 参り、夫より太神宮・祇園社 常栄寺へ参リ、夫より人丸 大明神、多賀大明神等へ

方へ一宿、

え参り、同所亀嶋や九郎右衛門

鳴滝を通り(禅昌寺) 一同八日、九郎右衛門方出立ニ而

夫より屋地市、福川市、飛田市(後市)(富田) 夫より椿垰、夫よりへ田市、 同所垰を越し、とのみ市、 (富海) 徳山町を通り遠石

市ニ而一宿

但宮市より七里

一同九日、遠石市出立ニ而

久米村へ出、夫より大呑町へ 出、夫より下松町へ出、室屋

出ル、同所ニ而髪仕廻 瀬戸へ通り、田布施町

等致、罷帰候

柳井村帰還

豊後国大貞

羅くわんより美田参ル、 乃チ夫より大貞八幡宮

善次郎・儀右衛門殿より

委敷承り申候

(以下、小遣い書部分省略)

保永